

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に関して、介護職員が慣れてくると馴れ馴れしい言葉遣いを使ってしまうたり、職員が忙しい時に利用者からの要望に対して形だけで心がこもっていないケアを提供してしまうことがあるといった課題がある。	介護を行う上で最も大切なことは、スタッフが利用者一人ひとりの人格を尊重し接することで、利用者に家庭と同じように「(おじいちゃん、おばあちゃんとして)家族に大切にされる」生活を続けていただくことである。職員は、その状況を目指す。	①人生の大先輩である利用者の人格を尊重した態度で接するように心がける。②職員会議や研修を通じて、スタッフに接遇や心構えの教育を施す。③人格の尊重はあいさつから、との考えに基づきスタッフは始業、終業時に利用者一人ひとりにあいさつの声かけを行う。	12ヶ月
2	6	入居後日が浅く徘徊が激しい利用者があるために、一時的な措置として玄関の施錠を行っている。	最終的には以前のように日中は玄関の鍵をを開放することを目標とする。	①入居後間もない利用者に関しては、早く慣れていただけるように従業員一丸となってケアにあたっていく。②医療機関とも協力しつつ、徘徊が軽度になった時点を見極める。③全利用者に対して身体拘束とならないように、外出などの要望に関しては誠実に対応していく。	6ヶ月
3	49	利用者の介護度が上がっていくに従い、利用者自身が体力の自信を無くし、通院以外では外出を自分からは希望しないようになってきている。	利用者が自分で散歩や買い物を楽しめる状態を目指す。	①身体機能が落ちないように施設内でも「生き生き百歳体操」などを行い、無理のない範囲で筋力を増進・維持できるサポートを行う。②スタッフから声をかけ、まずはベランダの散歩から、利用者を外に連れ出すきっかけを作る。	6ヶ月
4	10	運営に関して利用者、家族等の意見が「特になし」という状況が続いている。	利用者、家族等からの意見を「積極的に取りに行く」ことで、施設運営に利用者、家族等の意見を活かし、利用者がより生活しやすい施設を目指す。	利用者、家族からの要望を受け取る仕組み(連絡先の周知や目安箱の設置)は行っている。年に1回アンケートを実施するなどして、「声なき声」を拾い上げる。要望に対しては、それに対する施設の回答を利用者、家族が閲覧できる場所に掲示する。	12ヶ月
5	20	入居期間が長くなるにしたがって、家族や親戚、友人も「施設に任せきり」になり、利用者の馴染みの人や場との関係が希薄化していく傾向がみられる。	利用者個々人の希望に合わせて、馴染みのある人にお手紙を送る支援を行う。また、各家庭の事情に配慮しながら、ご家族との面会や外出を支援する仕組みを整えていきたい。	①定期的にご家族と過ごす時間を確保する観点からも、通院はご家族に行っていただくようお願いする。②年賀状、暑中見舞いなどの機会を捉えては、レクリエーションの1つとしてご家族、ご友人にお手紙を書くなどの後押しをしていく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。